

浅田 藤二



地元で作って消費

安心安全な仕組み作り

来を担う子どもたちのため、若いお母さんたちが動き出しています。

みしまオーガニック給食プロジェクト（渡辺恵

子どもたちの給食に、伊豆半島を愛する地元生産者の顔の見える安全・安心な米・野菜・魚・肉などの食材がふんだんに

くさんの方のご支援を必要としています。

東部、伊豆地域の皆さんのご支援、ご協力をぜひともよろしくお願いいたします。プロジェクトメンバーは、ただ単に要望を伝えるのではなく、命の源となる大地の恵みを、会員自ら汗水垂らしてまずは作ってみる、生産者さんのご苦労を味わうところから、本年度、米作りにも取り掛かりました」

美会長）は、有機農産物を使った学校給食の実現を目指す熱心なお母さんたちの団体です。生産者や行政と連携し、農業・地産地消・伝統食・発酵食を学び、体験や実践を通して関わる人たちへの感謝を大切にしつつ、保護者（消費者）としての願いを届けていこうと活動しています。

フェイスブックなどのSNSで伝えられる熱心な活動報告に、生産者の一人としてこの活動に協力し、応援していかねればならないと強く感じています。

使われるなら、伊豆半島がA級グルメの夢半島になつていくのではないでしょう。伊豆半島で経済がまわる仕組みを今か

この活動は、きっと素晴らしい伊豆半島の未来につながる夢プロジェクトになると思っています。みんなで応援していきます。HP「みしまオーガニック給食プロジェクト」で検索）

日本の食料自給率は、38%といわれています。食料の確保は、最重要事項であり国の安全保障の骨格です。貿易自由化に歯止めをかけ、食料自給率を上げていく政策を強く打ち出さなくてはなりません。

私たちにできることの一つは、誰がどんな方法で育てたかが分かる地元の安全・安心な食材を、地元で消費する仕組み作りだと思っています。未



実際に三島市梅名の田んぼで田植えに挑戦

たメッセージを紹介しま

す。みしまオーガニック給食プロジェクトは、今年3月18日に立ち上げたばかりの団体です。まだ、5カ月ほどの赤ちゃんの赤ちゃんと赤ちゃんと同じで、た

（伊豆市・浅田ファーム代表）